

◆団体基本情報

No.	17	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人仙台市市民文化事業団		
所在地	〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘三丁目27番5号						
電話番号	022-276-6778		FAX番号	022-276-2108		所管 部局	文化観光局 文化振興課
団体ホームページ	https://ssbj.jp/						
代表者職氏名	理事長 佐々木 洋			設立年月日	昭和61年10月1日		
資本金・基本財産	1,083,820 千円		市の出捐額(割合)	1,000,000 千円 (92.3%)			
設立目的	文化芸術の振興、郷土の歴史の継承及び生涯学習の支援に関する事業を行い、もって魅力ある市民の文化創造と豊かな市民生活の実現に寄与することを目的とする。						
事業概要	市民の文化創造及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集・保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営、その他目的を達成するために必要な事業。						
評価対象決算期	令和3年4月1日～令和4年3月31日						

◆人員等の状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①常勤役員数	3 人	3 人	3 人
うち市派遣	0 人	0 人	1 人
市退職者	3 人	3 人	2 人
②常勤役員平均年齢	63.0 歳	64.0 歳	62.3 歳
③常勤役員平均年間報酬	5,320 千円	5,341 千円	5,105 千円
④職員数	151 人	145 人	158 人
うち市派遣	1 人	1 人	1 人
市退職者	8 人	8 人	6 人
⑤職員平均年齢	44.1 歳	45.0 歳	45.7 歳
⑥職員平均年間給与	4,972 千円	5,070 千円	4,852 千円

◆主要財務データ

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①当期経常増減額	△ 3,444 千円	△ 6,094 千円	16,812 千円
②当期経常外増減額	0 千円	36 千円	0 千円
③当期一般正味財産増減額	△ 3,444 千円	△ 6,058 千円	16,812 千円
④一般正味財産期末残高	67,300 千円	61,242 千円	78,054 千円
⑤指定正味財産期末残高	1,118,248 千円	1,103,136 千円	1,083,820 千円
⑥正味財産期末残高	1,185,548 千円	1,164,378 千円	1,161,874 千円
⑦長期借入金残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆市の財政的関与

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
①市からの補助金	722,567 千円	620,157 千円	773,116 千円
②市からの委託料(指定管理料含む)	1,590,747 千円	1,545,436 千円	1,547,151 千円
③市に対する収入依存度	91.46 %	97.48 %	94.06 %
④市からの借入金	0 千円	0 千円	0 千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0 千円	0 千円	0 千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和3年度事業費
せんだいメディアテーク管理運営事業	平成29年度から令和3年度まで仙台市教育委員会から指定管理の指定を受けて、施設の管理運営を行った。	585,300 千円
仙台市青年文化センター管理運営事業	平成29年度から令和3年度まで仙台市から指定管理の指定を受けて、施設の管理運営を行った。令和3年度は大規模改修工事及びリニューアルオープンの対応を行った。	321,407 千円
仙台文学館管理運営事業	平成29年度から令和3年度まで仙台市から指定管理の指定を受けて、施設の管理運営を行った。	180,205 千円
仙台国際音楽コンクール事業	令和4年に開催する第8回仙台国際音楽コンクールの準備を進めた。	36,447 千円
仙台クラシックフェスティバル事業	事業団設立20周年記念事業として、2006年（平成18年）、敷居の高いクラシック音楽に親しみをってもらい、より多くの方々にホールで聴く生演奏の魅力を届けることを目的に立ち上げた事業。新型コロナウイルス感染対策もほどこしたうえで、15回記念の事業として実施した。	84,941 千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
1. 公益的使命・市が期待する役割への対応	コロナ禍による制約を受けながらも、財団設立から30年を経て培ったノウハウやネットワークを駆使して、公益的使命や基本方針に基づいた多様な事業開発、文化芸術の普及啓発や人材育成、文化芸術関係者や市民活動の支援・助成、安全に安心して利用できる施設管理運営等に取り組んだ。	設立以来積み重ねてきたノウハウやネットワークを活かし、コロナ禍における文化活動の再開・継続に向け、その実施手法や形態を模索するとともに、文化芸術団体や芸術家支援に取り組んでいただいた。引き続き、社会状況や生活様式の変化等を踏まえつつ、専門的な見地から、公益性の高い事業の開発・実施に取り組んでいただきたい。
2. 業務・組織管理	財団が有する経営資源を効果的に活用できるよう、組織間及び施設間での連携強化を図り、地域文化を担う人材との連携を進めながら各事業に取り組んだ。人材育成については、あらたな社会要請に応える劇場マネージャー育成を目的とする政策研究大学院大学の研修事業に職員2名を引き続き派遣するとともに、独自研修の充実を図った。業務管理については、質の高いサービスの提供と適切な財団運営を目指し、必要な改善等にも努めた。	今後も組織間及び施設間、地域の人材との連携を図るとともに、専門性を高め、発揮できる研修機会の充実や適切な人員配置のもと、効果的な組織運営・事業展開に努めていただきたい。
3. 財務状況	近年の金利低下による基本財産運用益の減少が常態化する中、基本財産の適切な運用を行った。コロナ禍による収入減への対応については、国や助成団体からの助成・補助、企業協賛金等の外部資金の活用を積極的に進めるとともに、受益者負担の推進や寄附受け入れを継続している。また、新たな試みとして、寄附型のクラウドファンディングを実施した。	感染症に起因する事業中止や規模縮小の影響を受けながらも、国や助成団体の助成金・補助金の活用に努めたほか、寄附型のクラウドファンディングを活用するなど、財源確保のための新たな取り組みを積極的に行っている。今後も、基本財産の適正な運用を行うとともに、多様な資金調達手段の開発に努め、安定した経営・財務基盤を維持していただきたい。
4. 今後の方向性及び課題	コロナ禍によって文化芸術を取り巻く環境が大きく変わり、未だ先の見えない状況が続いている。こうした状況における文化事業の在り方や新たな実施手法について検討を継続し、財団が長年培ってきたノウハウやネットワーク等を駆使して市民の文化活動の支援を進めてまいりたい。また、令和3年度に新たな基本指針及び第2次中期経営計画並びにBCP（事業継続計画）を策定した。仙台市の文化振興施策と緊密に連携しながら、健全かつ適切な組織運営を継続してまいりたい。	昨今、コロナ禍の長期化だけでなく、社会課題の多様化や、生涯学習等へのニーズが高まるなかで、文化活動への支援がより一層求められていることに加え、文化芸術の力を地域の活性化や魅力創出に活かす役割が期待されている。令和3年度に策定した基本指針、第2次中期経営計画に基づき、本市の政策との連携や社会の変化への対応に努めながら、引き続き、地域の持続的な発展と市民の心の豊かさを支える、本市の文化芸術振興の中心としての役割を担っていただきたい。